

日本神話と中国神話・伝説の比較考察

— 『古事記』における伊耶那岐命（いざなぎのみこと）・
伊邪那美命（いざなみのみこと）神話を中心に

長崎大学大学院生産科学研究科

唐 更強

研究動機と目的

本論文では、日本神話において、その冒頭を飾る重要な神話である伊耶那岐命・伊邪那美命神話について、私が特に興味を持っている数字の象徴的意味を中心に、ヒルコ神話の意味も併せて、従来、あまり顧みられなかった視点から考察し、その神話の解釈を行うことにした。

研究内容

第一章 『古事記』の「ヒルコ神話」について

筆者は「葦」・「船」の意味こそ、この神話を解釈する際の肝要な点ではないかと考え、「ヒルコ」・「葦」・「船」の意味をそれぞれ考察した。よって、葦で造った船に不具なヒルコを乗せて流すことは、力と生命の具現者である葦との直接の接触で、「ヒルコ」が健康な子供として新生、再生することを願った意味があると解釈した。又、邪気を払う機能を有する葦で造られた船に、不具なヒルコを入れることは邪悪なる子を葦で囲んだ舟で捨て去ることを意味する可能性があることを指摘した。

第二章 中国古代文献における数字「三」の意味や機能と日本神話

『古事記』冒頭部（序文・本文）の始原の神の数が「参神・三柱」であり、高天原という天上世界に誕生していることは、「天」との関わりにおいて「三が万物の起源」を表わす中国の数字観念に影響された可能性があるではないかと指摘した。

第三章 なぜ伊耶那岐命は桃の実三つを投げるのか

なぜ三つの桃の実が雷神たちを逃げ返らせたのかについて、筆者はその理由を以下のように考えた。

まず、「桃」自体について、一、中国で、桃自体に邪気を払う力があるとされた。二、「桃」は「逃」と発音が同じで、「逃」は「亡」と意味が繋がるから、「桃」を投げることで、「邪気を逃げ返らせる」「邪気を亡ぼす」という意味が掛け言葉的に使われている可能性がある。三、「桃」は「陽気」と深く関わり、「陽気」が「陰気」である「邪気」との対極にある。

次に、なぜ、三つでなければならないのかについて、一、三つの事物或いは三つの段階により、一つの事業と功績が完成できるという観念に関するであろうとした。二、「三」が持つ、万物を生みだす生命力と結びつき、対極にある「死」の世界の雷神達を追い払えた

と解釈した。

最後に、なぜ桃の実であって、桃の枝等でないかについて、「実」は、特に「邪気払い」の力が強い部分で、枝や花よりも、効果的である。それは西王母などが持つ「桃」が「不老不死」の性質を持つ点にも伺われる。「不老不死」は、「生」の極致であり、「死」の黄泉の国の魔物たちとは対極に位置すると考えられるとした。

第四章 『古事記』国生み神話における数字の「八」及び「八」に関する構造の考察

日中では、地上世界と天上世界の関係について、天地接合という同様の観念を見出すことができる。「八」は中国でも地の果てと関わる数字で、日本の「大八島」の発想と関連を持つのである。さらに、「九」だけでなく、「八」も中国では、古来、完璧を表わす聖なる数字で、「大八島国」の「八」に込められた完璧を表わす聖数観念は、中国の古典の「八」の聖数観念を受け継いでいたのではないかと推測した。

第五章 『古事記』の黄泉の国説話における「八雷神」に関する一考察

伊邪那美命の身体に「八雷神」があったのも、恐らく松村武雄氏の説く「死霊追跡阻止のために屍が八つに分割された」という説に相当する中国古代の「八創」と「別葬」との意味を共に含めているのではないかと考えた。つまり、身体の八つの部位のそれぞれに、恐ろしき魔物がいたことは伊邪那美命の死霊復活を恐れたために、体が八つに分割されていたことを暗示すると解釈した。

第六章 「一日に千頭絞り殺さむ」と「一日に千五百の産屋を立てむ」の解釈について

中国の古代文献にある数字観念の中で、「参（三）天両（二）地」の観念から、天上の高天原に関するものは「三」、地上の葦原中国に関するものには「二」との関わりが見出され、多数を表わす「五百」と掛け合わせることで、「千五百」「千」の数字が生まれた可能性を論じた。「千」は「五百の二倍」であり、「千五百」は、「五百の三倍」であって、地母神の伊邪那美神が「汝の国の人草を、一日に千頭絞り殺さむ」、天父神の伊邪那岐神が「吾一日に千五百の産屋を立てむ」と言い合う対話は正に「三天両地」という数字に対応しているのでなかろうかと解釈した。

まとめ

本研究は、「葦」・「桃」という植物の持つ象徴性の他、従来、日中の学者がほとんど手をつけてこなかった中国の古代文献における数字の「二」・「三」・「五」・「八」の象徴的な意味或いは数字構造を詳しく考察した点で、独自性をもった研究であって、数字の意味や構造が多用されている伊邪那岐命・伊邪那美命の両神をめぐる幾つかの神話の新たな意味を解釈した点に意義がある。